

## 九州地方のスラブ内b値分布

## Disrtribution of b-value in the Slab Descending beneath Kyushu District

# 細野 耕司 [1]; 弘瀬 冬樹 [2]

# Kohji Hosono[1]; Fuyuki Hirose[2]

[1] 福岡管区気象台; [2] 気象研

[1] Fkuoka Met. Obs.; [2] MRI

Wyss et al. (2001) は、東北地方の太平洋スラブ断面のb値分布を示し、高b値領域が深さ140 - 160kmのスラブ上面と火山直下の15 - 40km付近に存在することを明らかにした。深部と浅部の二つの高b値域を結ぶようにS波低速度域が分布している様子 (Iwamori and Zhao, 2000) から、深さ150km付近において沈み込んだスラブの脱水反応が生じ、それに伴う水の供給によってマントル物質の溶融が発生し、生成されたマグマはマントル・ウェッジを上昇して火山直下に到達していると推論した。今回同様な解析を九州地方に沈み込むフィリピン海スラブに対して行ったので報告をする。

今回b値を求めると、深さが60 - 80km付近と140 - 160km付近の二箇所が高b値域が存在することがわかった。特に鹿児島県の深さ120 - 180kmには地震活動の活発なクラスタが存在し、九州のほかの領域に比べて高b値となっている。この深部の高b値域付近から火山直下まで低速度域が認められることから、東北地方と同様な現象が起きていると考えられるが、違いもあることがわかった。